

「コロナ禍に想う」

(株)YK商会 取締役社長 なかた 中田 けいたろう 桂太郎



住 所: 加古川市加古川町粟津469-1

T E L: 079-421-5995

営業内容: 塗料、溶剤、塗装器具、設備の販売、
調色、塗装工事等

4月から5月に掛けて、コロナ禍による外出自粛要請等に伴い、多くの企業にも業務活動等に影響が及びました。WHOによるパンデミック宣言が出される頃には、マスクは市場からほぼ消え入手困難となり、国内に緊急事態宣言が発令される頃には、原則外出時はマスク着用が義務付けられるようになりましたが、マスクが購入できない故、どうすればよいのか困惑しました。私同様にご苦労された方も多かったものと推測致します。

確か2009年に新型インフルエンザが流行した際にも、今回同様に市場の不織布マスクの不足が発生したように記憶しています。しかし、ある程度の時間が経過し、流行が

収まるとマスク不足も解消され、ドラッグストアは元よりホームセンターでも普通に置かれるようになり、それ以降は特に自身が風邪やインフルエンザ等に罹った際、若しくは病院に行く用事がある際に着用する程度で、特段保管等の意識をしたこともありませんでした。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」というやつですね。

また、性能云々より価格を重視して購入しておりました。

そして、今回のコロナ禍。冒頭のような状態が起き2か月程度手に入らない状況が続いたのは皆さんもご存知のとおりです。

不織布マスクは日本では主に中国やベトナムにて生産されたものを輸入、それ故に低価格にて市場で販売されてきました。

しかし、このコロナ禍には全く手に入らなくなった。前回も同様の経験をしていたにも関わらず。

これは普段から私たち消費者が価格だけで商品を判断しがちで、特にこのような消耗品は安ければ良い!ということが齎した結果ではないでしょうか。ただし、今回は性能をどうこういうつもりはありません。無論、性能が良いに越したことはありませんが、安さを求めて海外で生産している商品が、いざという(緊急)時に国内で生産されておらず、また原料調達や設備稼働の観点からすぐに動かせず、生産するにも大きな時間を有し、その結果、最も必要な医療従事者、医療機関に勤める方々、持病のある方々や多くの方と接する機会のある人たちに迅速に行き渡らなかつたことが問題であったと思います。

では、どうすれば良いのでしょうか? 企業経営においては、やはり売上額、利益率を重視し、常にコスト意識を持つことが最も重要で数字を意識することは当然のことです。コストは出来るだけ低く抑えることは現代社会、特にグローバル社会と称される現代社会においてとても大事なことです。しかしながら、それが理由でモノが手に入らないとなると話は変わってきます。

100万円の設備を40万円で買うことは馬鹿らしく無理な話ですが、海外産のマスク1箱50枚入りとして、不織布マスクが700円程度(1枚当たり14円)だったものを、国内産3千円程度(1枚当たり60円)払い購入することは決して難しくないのではないかと、思うのです。この例ではコストは共に4倍程度になるのですが、「0」の桁が違う。為、取組みやすいことだと思います。

さらにこれにより、国内の製造会社が生産を維持、経営していくことが可能となるのであれば、企業の維持、雇用の維持、ひいては有事の際の対応にもつながり、一石二鳥、三鳥にもなると言えます。

大きなことは出来なくても、そういう一人ひとりの出来る範囲での普段からの心掛けが、実は緊急時対応につながるものになるのでは?と、このコロナ禍で考えさせられた次第です。

これから第2波、第3波の襲来が確実視される状況であるからこそ、一人ひとりが少しの背伸びで協力することで、国内調達、国内景気、雇用の支持協力につながり、さらにマスクのみならず、この先のものづくり大国としての地位の維持、発展にもつながり得ることを意識していただけたらと思います。